

第8回大野市総合計画審議会

日時：令和3年2月16日(火)

午前9時30分～午前10時15分

場所：結とびあ 3階 305・306号室

出席者 大野市総合計画審議会委員 17名（欠席者8名）
政策局長、総合政策課長、総合政策課員

1 市長あいさつ

- ・委員の皆様は2年にわたり審議いただいた第六次大野市総合計画がいよいよ完成という日を迎えることができた。
- ・審議会、幹事会に大きな時間を割いていただき、市民と一緒に作り上げる総合計画ができたこと感謝申し上げます。
- ・SDGsの内容が一般化しつつあるほか、新型コロナウイルス感染症対策としての「ニューノーマル」への対応など変化が激しい状況を踏まえた総合計画になったと考えている。
- ・みなさんで作り上げてきた総合計画に基づき、新年度は動き出していく年としたい。市役所としては、できるところから予算化し、体制を整えて総合計画に沿った形の中で動き出していきたい。
- ・この総合計画に「みんなができること」が盛り込まれたということで、市民の皆様、団体の皆様、事業所の皆様、国や県の関係機関の皆様と一緒に「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」を目指していきたい。

2 会長あいさつ

- ・今の時代の情勢、未来に向けて起こりうる課題を踏まえた総合計画ができたと思っている。これからは、これを実践していくことになる。

3 報告事項

委員の出欠について

4 議事

(1) 第六次大野市総合計画前期基本計画について

- ・事務局から前回会議からの経緯について説明。
- ・完成した総合計画の内容について説明。

意見等

委員：冊子の形となって、これまでの議論がこのように形になるのかと実感した。幹事会、審議会に出席して、このようなプロセスで市民の意見が反映

- されていくということが分かった。自分も所属団体の方や色々なところで、周知するとともに一緒に取り組んでいこうということを伝えていきたい。
- 会 長：総合計画の冊子は、色々な分野がどのようなことを進めていこうとしているか分かるものとなっており、自分の所属する専門的な分野がどこに向かうのかということが確認できる。連携の体制作りもしやすくなると感じている。
- 委 員：コロナ禍という特殊な状況にあったにも関わらず丁寧に議論を重ねた結果、計画書ができあがった。総合計画は上位計画。大野市が進むべき、進めていかなければならない事業、施策を示す決意表明書だと思っている。ここにいる皆様が情報発信媒体になるんだという気持ちで、どんな思いでこの計画が作られたかを伝える側になってもらいたい。大野市内にとどめるだけでなく、外にも発信していくことが大事。私自身の方法で進めていきたい。
- 委 員：今後の情報発信の在り方として、概要版を全戸配布されると聞いているが、どのような形で進めていこうとしているかを聞かせてもらいたい。
- 事 務 局：取り組みを進めていくことが大事であるため、総合計画の趣旨、目的、内容を市民の皆様と共有することが大事であると考えている。概要版の作成の他に、新年度には機会を捉えて各地区、各種団体、学校などに説明に回ることを考えている。委員の皆様におかれても、所属団体や事業所などで会合や研修の中で説明する時間をいただければ、是非説明させていただきたい。「みんなができること」など皆様と考えながらお話をさせていただけたらと考えている。ご検討の程をよろしくお願いしたい。概要版は、イラストやアニメーションを交えて、市民の皆様には伝わりやすいものになるよう工夫して作成しているところ。全戸配布することで周知していきたい。
- 委 員：公募委員ということで、専門的な見地というよりは全体を見渡せるようにと考えていた。地区別ワークショップへも8カ所中4カ所に出席した。地区ごとに色々な意見が出た中、どのように計画に反映されるかと考えていたが、所々に反映されている。
- 委 員：幹事会にも参加させてもらい、様々な分野の課題などを聞くことができ、貴重な機会をいただいた。地域の問題がたくさんあることも分かり、「みんなができること」が大事であると感じた。市民一人一人が関わらないと継続した取り組みにならない。「みんなができること」を少しでも多くの方に触れてもらい、それぞれが「このことなら取り組める」ということを見つけてもらえる機会ができると良い。
- 委 員：みなさんの意見が形になり、大野市の将来につながっているということが実感でき、充実していた。
- 委 員：SDGsの推進、ニューノーマル、デジタル化の推進といった新しいキーワードが盛り込まれた。市民の皆様への周知、共有はこれから。広報に努めるとともに、審議会委員や市職員と同じようなレベルに総合計画を落とし

こむ必要がある。一人の市民として、自分のこととして取り組んでいこう、というムード作りが必要。先に挙げたキーワードは日本で、世界で同じことを言われているが、大野独自の、大野型の取り組みを進めてもらいたい。教育の中でデジタル対応、ニューノーマルへの対応等をつたえることが、SDGs の取り組みにもつながると思う。

会 長：大野のあるべき姿を目指すために総合計画が策定され、ようやくスタートラインに立ったところ。一人一人が自分事として、大野のやる気を伝えていくことが大切。デジタル化、ニューノーマルへの対応などを実践していくためには「大野版」であることが必要。「文化」にしなければならない。ビジョンを持ち、ビジョンと現状との差を課題として捉え、課題を解決するための方策を展開するということが大事と考えているが、この計画は正にそのようにできあがったもの。実行する際に自分が主役として進めることが重要と改めて感じている。委員の皆様にも改めて感謝を伝えたい。

5 その他

○事務局から新年度における総合計画と総合戦略の進捗管理、評価を新たな推進体制を構成して実施したい旨説明。

会 長：新たな推進体制はこの審議会のメンバーを中心に組織されるのか。

事 務 局：人数等も調整し、お願いさせていただく団体もあると思う。まだ調整中で、決定事項ではないが、これから5年先、10年先を見据えて中堅あるいは若手の方を団体から推薦いただき、進めていけたらと考えている。

全体を通しての意見等

委 員：総合計画はこれで完成となるが、これからしっかりと推進してもらいたい。「結」が浸透すれば取り組みが進んでいくのでは。市役所の職員と市民が同じような理解の下、進めていくことが必要。

6 閉会 会長あいさつ

- ・第六次大野市総合計画の策定に係る審議は本日の会議をもって終了することになる。皆様には多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。
- ・大野は高速交通体系も整うことになり、福井県の中では変化が大きい地域。未来に向けて発信できる基盤ができつつある。
- ・この計画をベースに益々の発展を祈念する。